

Gigantopteris dentata YABE

小 泉 源 一

Gigantopteris dentata YABE in Jour. Geol. Soc. Tokyo, XI. (1904) p. 159. (nomen seminudum) は故小藤文次郎博士が朝鮮慶尙北道聞慶炭田犬灘にて採集されし *Gigantopteris* の一種に命名せられたもので、矢部教授は當時、SCHENK 氏の原品は葉縁が齒牙状を呈せざるものとし、犬灘品は反之齒牙状縁を有するにより別種となし *G. dentata* YABE として區別されたものである。

其後小岩井氏は東北大學地質古生物紀要第四卷第二號に於て *G. dentata* YABE の Type は、ZEILLER 氏が雲南省宣威縣、東川、綠菜坪、錢家溝より *Gigantopteris nicotinaefolia* として記載せるものと同一種と斷定し、殊に葉片の斷片にして其外形さへも明ならざる錢家溝産のものが示す葉脈を以て本種の構成脈と考へ、以て *Gigantopteris nicotinaefolia* の葉脈と異るとなせり。

然し其後小島信夫氏は聞慶炭田を三回も訪れて *Gigantopteris* を採集せしも、一も小岩井氏の云ふが如き葉脈を有する標品を得ず、皆 *G. nicotinaefolia* 型のみを得たりと云ふ。

小岩井氏は聞慶産の一斷片と雲南産の一斷片と同一種なりと斷定せしは頗る至難の事であるのみならず中々首肯し難き事である。

それで今は ZEILLER 氏雲南品中 Fig. 14. 16 の品は *G. nicotinaefolia* と考へ、Fig. 15. 15a 品は之と別種なるのみならず、別屬のものと思ふるを安全なりと思ふから、前項の如く新屬とした。

第三紀南周極要素

小 泉 源 一

現時の北半球には通じて、第三紀に北周極地域に發源した、第三紀北周極要素 (Arcto-tertiar Elemente) と云ふものゝある如く、南半球には亦第三紀南周極要素 (Palaeo-circum antarctic Elements) と云ふものがある。

現時の南極州大陸 (Antarctica) は氷原にて被るゝと雖も中生代や第三紀には植物繁茂し中生代の終の頃から第三紀の始には南米大陸や濠太利亞、新西蘭土と陸地連續の狀にありて、其第三紀極南要素を分布せしめしものゝ如し、一方又濠太利亞タスマニア大陸が Malaysia と分離せしは第三紀中新世以來の事であるから時に北半球要素

の或者は此陸橋を利用して終に南米の南端にさへ分布して行つたものもある。

第三紀極南要素の内でも殊に著しいもの C. SKOTTSBERG 氏の研究した百合科の *Astelia* がある、本属は二十三種もありて、南米の南端、Marquesas, Tahiti, Raiatea, New Caledonia, 新西蘭土、タスマニア、南東濠太利亞、New Guinea に分布し、更に著しきは Hawaii, より亞弗利加の Mascaren 群島の Rëunior 島にまで及んでゐる。其他之と同系の植物分子を擧ぐれば *Fitzroya* (松柏科); *Vincentia*, *Carpha* (莎草科) *Marsippospermum*, *Rostokovia* (燈心草科); *Libertia* (鳶尾科); *Enargea*, *Cordyline*, *Luzuriaga* (百合科); *Nothofagus* (山毛櫸科); *Embothrium* (ヤマモガシ科); *Phrygilanthus* (ヤドリギ科); *Colobanthus* (石竹科); *Drimys* (木蘭科); *Discaria* (鼠李科); *Drapetes* (瑞香科); *Gaya* (縮葵科); *Aristolelia* (ホルトキノ科); *Griselinia* (山茱萸科); *Pseudopanex* (五加科); *Schizeilema*, *Azorella* (繖形科), *Weinmannia* (Cunoniaceae); *Gaimardia* (Centrolepidaceae); *Laurela* (Monimiaceae); *Leptocarpus* (Restionaceae); *Eucryphia* (Eucryphiaceae); *Hebe*, *Jorellana*, *Ourisia* (玄參科); *Coprosma* (茜草科); *Pratia* (桔梗科); *Selliera* (クサトベラ科); *Phyllachne*, *Donatia* (桂果科); *Trichochina*, *Abrotanella* (菊科); *Tetrachondra* (Tetrachondraceae)。

Pecopteridium manchuricum KAWASAKI

に就て

小 泉 源 一

川崎繁太郎博士は南滿洲の寺洞統 (下部二疊系) の太窯溝炭坑より氏の新屬化石植物なる *Pecopteridium manchuricum* KAWAS. nov. gn. Sp. を發表せられたれども、*Pecopteridium* は之より先 BERTRAND 氏の既に設立せし屬なるを以て、次の如く新名を與ふる必要を來たせり。

Jidopteris KOIDZ. nov. nom.

Pecopteridium (non BERTR.) KAWASAKI in Bull. Geol. Surv. Chosen, vol. VI. no. 2 (1931) t. 34, fig. 73; - et in No. 4 (1934) p. 155.

Fronde bipinnate with comparatively thin rachis and alternate pinnae. Pinnae with the lowest catadromous pinnule and often a decurrent pinnule. Pinnules opposit or subopposit, triangular in shape, acute at the apex, confluent at the base, acutely dentate, the upper margin nearly straight or slightly concave, and the lower margin convex; midrib strong, straight or slightly bent inwards; lateral veins 5 or 6 on each side, with a catad-